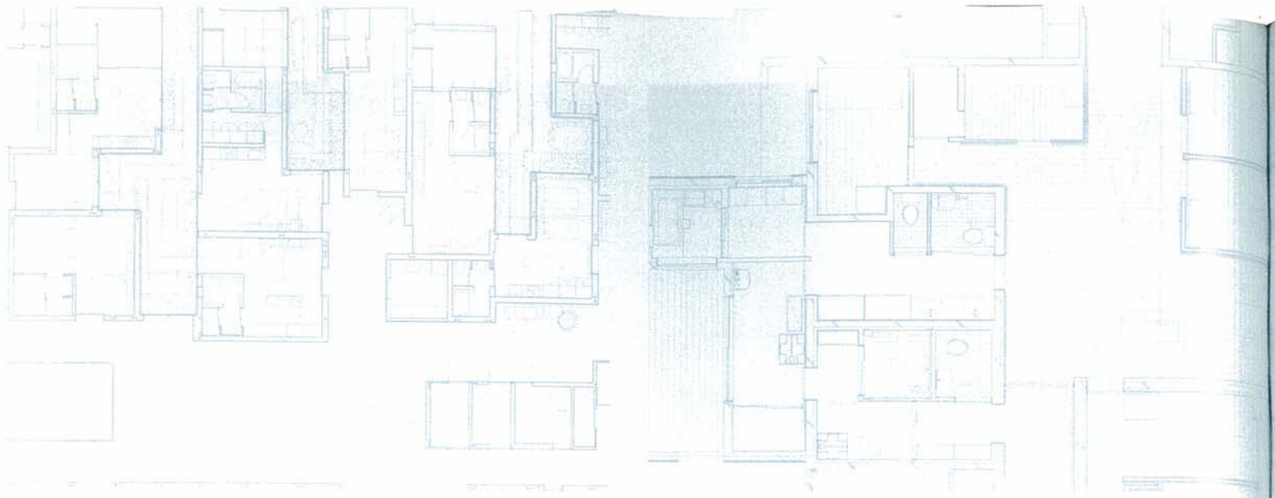
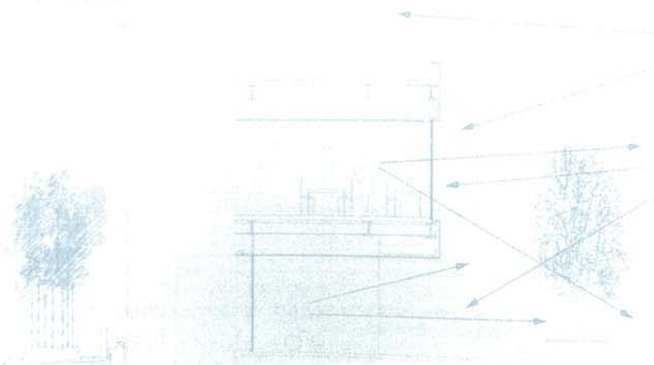
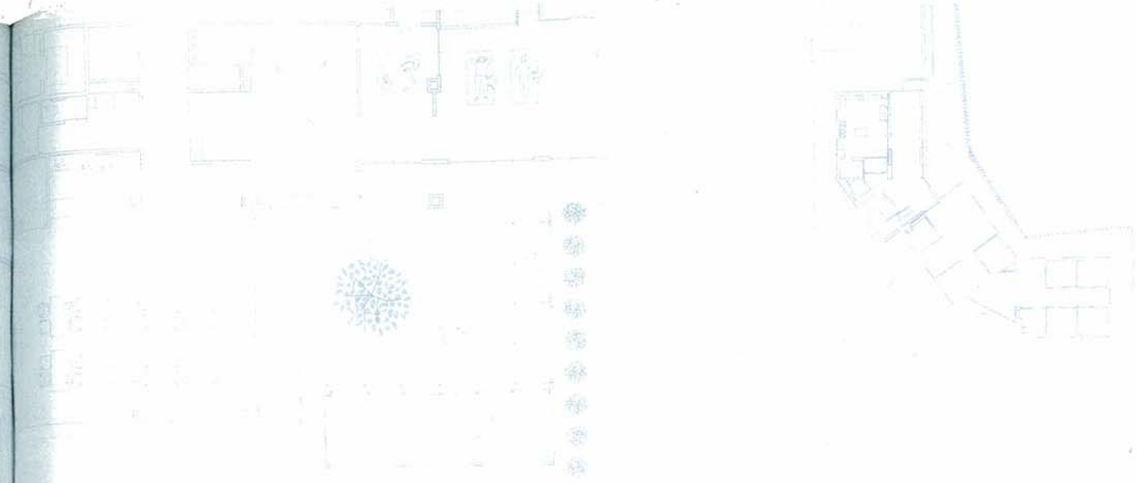


特集

医療・福祉建築2013

—変化を読み取る設計





少子化や高齢化，また地域の縮退など，社会の構造は変化してきています．そこで，医療が担うことはどんなことでしょうか．そうした変化に対応した医療，福祉建築を特集します．
掲載するのは子どもの医療，高齢者の生活の変化，公立病院の合併，大きな病院の建て替えなどに対応した建築です．その中には居住空間の快適性や防災性，まちとの関わりなど，ハードだけではなくソフト面から応えることが必要なものも増えています．また，海外へ視野を向けると，これらとは違った指針や可能性が見えてきます．
特集では，病院の評価基準に関してのふたつのインタビューと，アメリカの病院の現状を取り上げる記事，医療福祉建築9作品を掲載します．今，社会の状況や制度を複合的に考えた設計が求められています．（編）

112 特集インタビュー：病院はどのように評価されるか　日本の病院設計を取り巻く医療の評価基準を知る
山下哲郎／工学院大学

116 関連インタビュー：新しい病院設計のスタンダードを目指して
郡明宏／鹿島建設

118 記事：アメリカ医療建築の現在　経済の動きや医療技術の進歩に対応した，患者本位の施設へ
ジル・N・ラーナー／KPF

家のような空間で治療をする
120 チャイルド・ケモ・ハウス
手塚貴晴＋手塚由比／手塚建築研究所
解説：夢の病院は「家」　手塚貴晴＋手塚由比

距離感を調節しながら生活する
130 みずのき
竹原義二／無有建築工房

ひとりの居場所を生み出す改修，増築
138 おひさまえん
古森弘一建築設計事務所＋森敬幸
解説：ひとりひとりのこころの居場所　古森弘一

住み慣れた土地での個々のニーズに応える小規模ケア施設
144 青梅複合型ケアサービスセンター
川口有子＋鄭仁愉／有設計室　長谷川洋平／長谷川大輔構造計画

都市型医療福祉コンプレックス
150 桜十字メディカルスクエア
大成建設・三菱地所設計設計共同企業体
記事：ハイブリッドシニアレジデンス——高齢社会における新しい住まい方の提案　岡田哲／大成建設

統一された内部空間と，見る／見られる関係をつくり出す配置計画
158 西能病院＋整形外科センター西能クリニック
ヘルム＋オンデザインパートナーズ＋KAJIMA DESIGN

ふたつの市立病院の統合，防災拠点としての災害時への取り組み
166 中東遠総合医療センター
久米設計

176 プロジェクト：慶應義塾大学病院　新病院棟建設を含めた病院再編整備計画
久米設計・システム環境研究所・メディカルクリエイト共同企業体（基本構想・基本計画マスタープラン策定）
竹中工務店（設計施工）

光を取り込み，街のようなにぎわいを持つ回廊空間
178 福島県立医科大学　会津医療センター
古市徹雄都市建築研究所＋佐藤総合計画

統一された内部空間と，見る／見られる関係をつくり出す配置計画

西能病院＋整形外科センター西能クリニック

設計　ヘルム＋オンデザインパートナーズ＋KAJIMA DESIGN
施工　鹿島建設
所在地　富山県富山市
SAINOU HOSPITAL＋ORTHOPAEDIC SURGERY CENTER SAINOU CLINIC
architects: HELM＋ONDESIGN＋KAJIMA DESIGN

中庭を挟みクリニックと病院が並ぶ．新たな敷地に移転してきた病院と，新築のクリニック．設計者はコンペティションにより採択された．外来，入院患者それぞれに合った医療環境を提供するため外来分離とした．

夜景．クリニックから病院を見る．中庭側には，リハビリ室や食堂・デイルーム，待合，スタッフルームなどが配置され，病院側，クリニック側相互の様子が分かる．

地域の専門医療機関の新しいあり方

富山市の地域医療を担う五省会の創業50周年に合わせ，既存の病院を新たな敷地に移転，新築した病院＋クリニックである．

地域の医療機関の総合病院的な多目的化，肥大化，複雑化はかえって患者サービスの質を下げ，病院のポテンシャルの低下を招く要因となる．西能病院では，地域の医療機関に求められるのは専門性を備えた医療環境の提供と迅速性であるとの観点から，整形外科で北陸有数の病院である既存病院の専門性に特化した地域の新しい医療モデルの実現を目指した．ここでは外来であるクリニックと病院を患者本位の医療環境として見直し，機能分化（外来分離）を図り，同一計画地内においてクリニックと病院を隣接させ一体的整備を行った．医療機関として各々独立しているが，クリニックで診察・検査を受けた患者は入院・手術の必要に応じて直ちに病院での受け入れが可能となっており，迅速かつ一貫した専門医療を受けられる体制が整っている．

地域の日常と繋がる開かれた医療の場

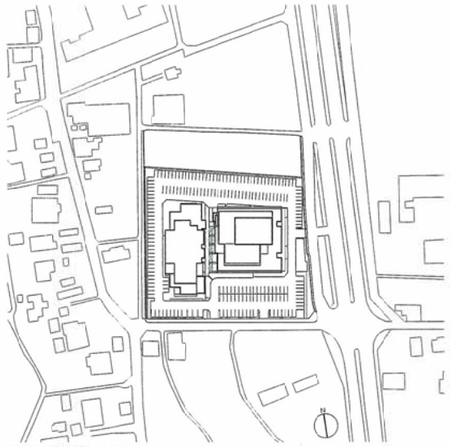
機能分化されたクリニックと病院を連携する上で「リハビリテーション」の位置付けはとても重要である．病棟では手術後，早期退院を目指しリハビリが行われ，クリニックでは病院からの退院患者の多くが通院によるリハビリを行っている．計画に際しては，このリハビリを中心に整形外科専門の医療機関としての両者を空間的に結び付けるような構成を考えた．

中庭を挟んでクリニックと病院は適度な距離を保ち，双方のリハビリスペースが向かい合った構成となっている．リハビリ患者やスタッフがお互いに見る／見られるの関係を持つことが，スタッフ同士の意識向上と患者の早期退院・回復に向けた目標や励みになると同時に，一体感ある「まちなか」のような領域の創出に繋がるのではないかと考えた．クリニックと病院が相互に補完し合う様相を持つことで，単なる機能空間に留まらず地域や日常と連続する，身近で開かれた場となることを意図している．

トータルデザインによる病院ブランディング
―新しい医療風景の創出

医療の専門化やレベルアップを図ると共に，将来にわたって患者から選ばれ地域に受け入れられる病院を目指す上で，新しい施設のイメージと合わせて重要なテーマとなったのは，患者，スタッフにとってよりよい医療環境となるよう身の回りのデザイン性を高めることだった．サイン，照明，ランドスケープデザイナーとの協働を得て，機能分化された病院とクリニックを一体的に計画すると同時に，カラースキームと合わせた家具・リハビリ機器のカラーコーディネートや，新規統一したスタッフユニフォーム，コーポレートアイデンティティ計画に対しトータルなデザインを行うことで，ハード／ソフトと切り分けられがちな建築空間，医療機器，サービスの境界面を融合し，新しい病院の風景創出を積極的に図っている．

（岩崎修／ヘルム
西田司＋後藤典子／オンデザイン）



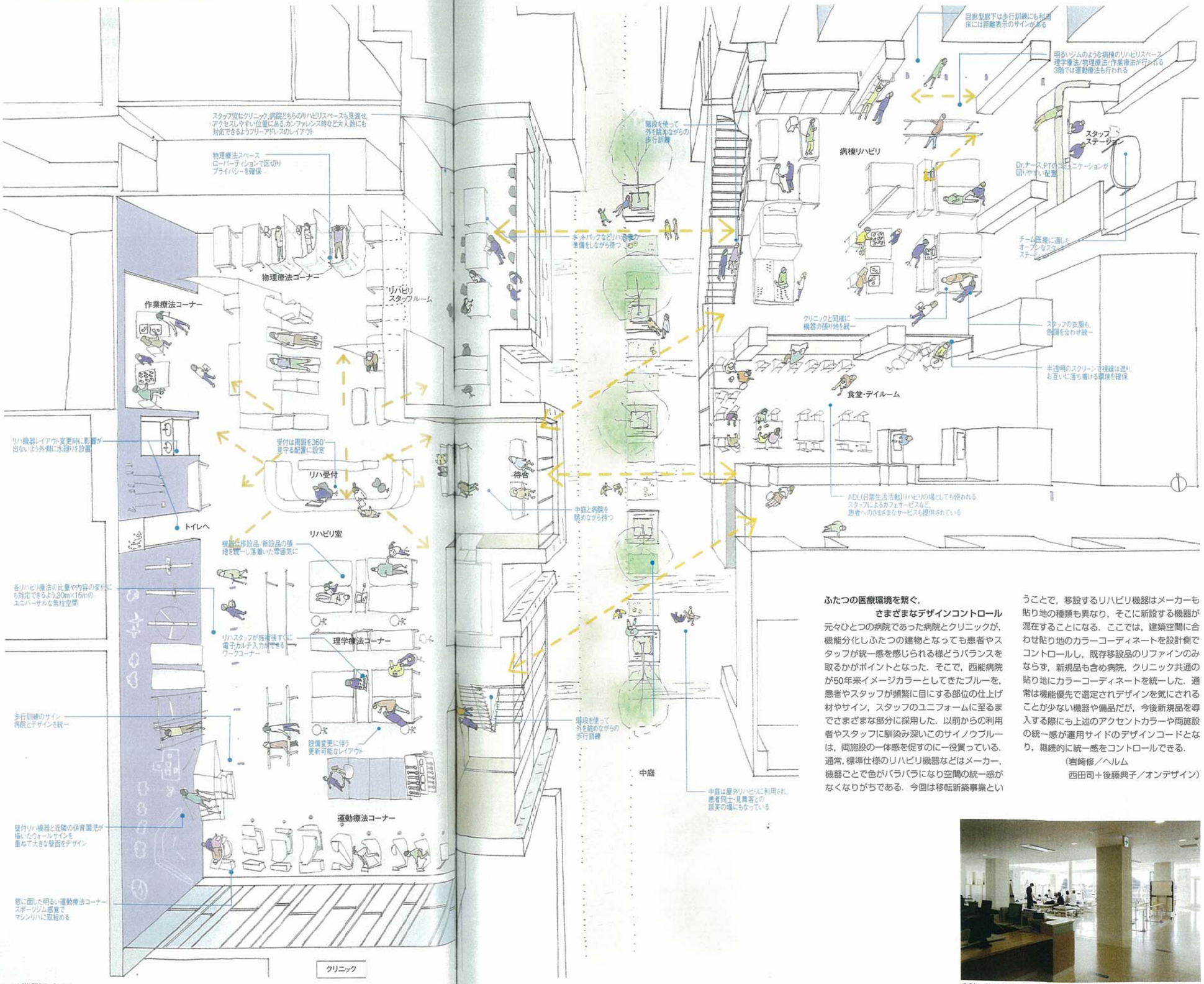
配置　縮尺1/4,000

クリニック2階，リハビリ室．将来のリハビリ療法の変化への対応を考慮した，無柱空間のワンルーム．通常，購入したまま利用するリハビリ器具は，以前からの機器，新規購入機器ともに統一した張り地に張り替え空間に統一感を持たせた．また器具の配置は職員へのヒアリングから決定している．壁面の絵は，近隣保育園の児童のスケッチを写し取ったもの．

オープンで統一されたリハビリ環境

撮影：オンデザイン

上：クリニック2階のリハビリ室の器具．共通の張り地に替えることで統一感を持たせている．
下：以前の外来用リハビリテーション室．器具の張り地が統一されていない状態．



2階平面パース

病院2，3階の病棟リハビリ室を繋ぐ階段．右の中庭側をガラス張りとした開放的な空間．

ふたつの医療環境を繋ぐ，さまざまなデザインコントロール

元々ひとつの病院であった病院とクリニックが，機能分化しふたつの建物となっても患者やスタッフが統一感を感じられる様どうバランスを取るかがポイントとなった．そこで，西能病院が50年来イメージカラーとしてきたブルーを，患者やスタッフが頻繁に目にする部位の仕上げ材やサイン，スタッフのユニフォームに至るまでさまざまな部分に採用した．以前からの利用者やスタッフに馴染み深いこのサイノウブルーは，両施設の一体感を促すのに一役買っている．通常，標準仕様のリハビリ機器などはメーカー，機器ごとで色がバラバラになり空間の統一感がなくなりがちである．今回は移転新築事業ということで，移設するリハビリ機器はメーカーも貼り地の種類も異なり，そこに新設する機器が混在することになる．ここでは，建築空間に合わせ貼り地のカラーコーディネートを設計側でコントロールし，既存移設品のリファインのみならず，新規品も含め病院，クリニック共通の貼り地にカラーコーディネートを統一した．通常は機能優先で選定されデザインを気にされることが少ない機器や備品だが，今後新規品を導入する際にも上述のアクセントカラーや両施設の統一感が運用サイドのデザインコードとなり，継続的に統一感をコントロールできる．

（岩崎修／ヘルム
西田司＋後藤典子／オンデザイン）

病院3階リハビリ室．クリニックと同様，張り地を統一している．

上：南側外観．2層のクリニックと4層の病院が並ぶ．近隣民家のスケールを考慮し，なるべく高さを抑えるため，病院の4階はセットバックしている．
下：中庭よりクリニックを見る．2階の待合，スタッフルーム，階段のボリュームは病院側にせり出し，距離を近付けている．

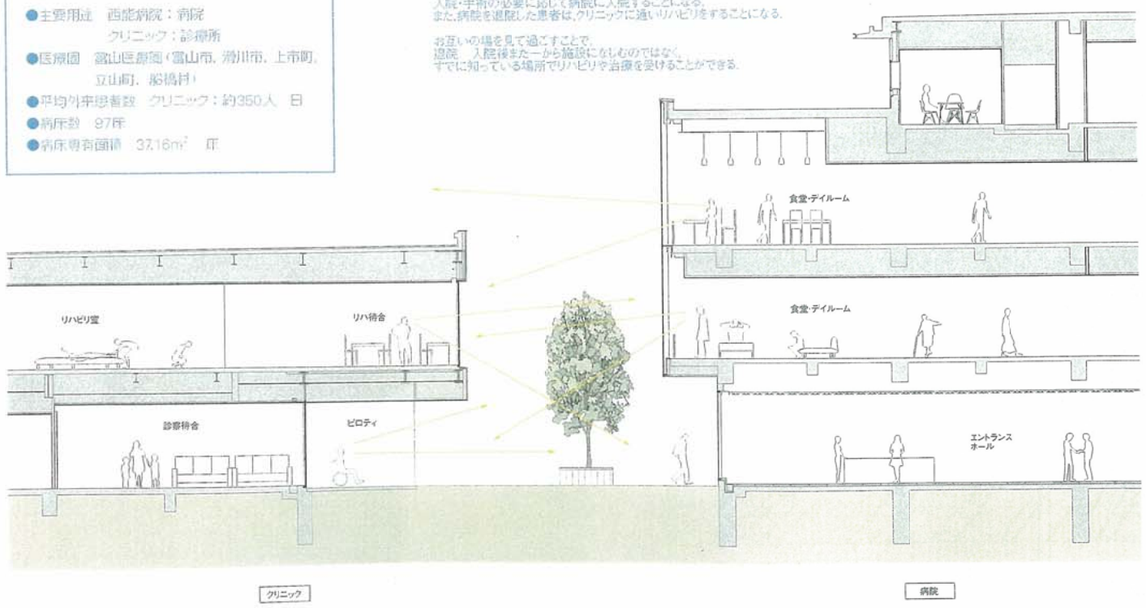
設計　建築　ヘルム＋オンデザインパートナーズ
　　医療部門設計・監修・設備　KAJIMA DESIGN
　　構造　Arup
施工　鹿島建設
敷地面積　病院：6,500.28m²
　　クリニック：4,182.31m²
建築面積　病院：2,189.88m²
　　クリニック：1,375.25m²
延床面積　病院：6,472.42m²
　　クリニック：2,190.44m²
階数　病院：地上4階　クリニック：地上2階
構造　病院：鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
　　クリニック：鉄骨造
工期　2011年3月～2012年2月
撮影　新建築社写真部（特記を除く）
（データシート203頁）

中庭を介して見る／見られる関係をつくる

- 主要用途　西能病院：病院
  　クリニック：診療所
- 医療圏　富山医療圏（富山市，滑川市，上市町，立山町，舟橋村）
- 平均外来患者数　クリニック：約350人／日
- 病床数　97床
- 病床専有面積　37.16m²／床

クリニックで診療・検査を受けた患者は，
入院・手術の必要に応じて病院に入院することになる．
また，病院を退院した患者は，クリニックに通いリハビリをすることになる．

お互いの場を見て過ごすことで，
退院，入院後また一から施設になじむのではなく，
すでに知っている場所でリハビリや治療を受けることができる．

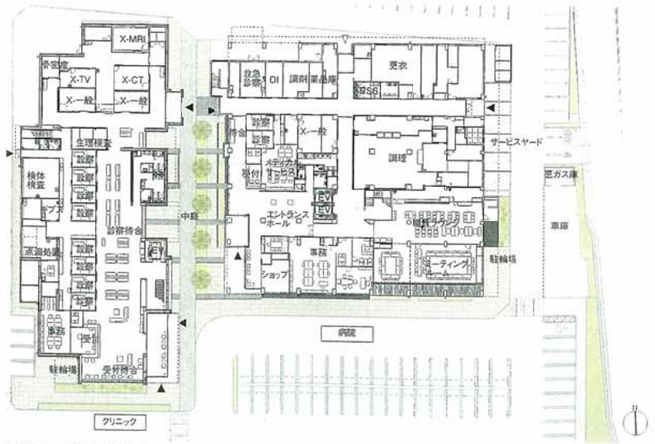


断面詳細　縮尺1/200

左上：病院3階，1床室．左右どちらからもケアができ，また立山連峰が望みやすい角度にベッドを配置している．左下：クリニック1階診察待合．1階に外来診療部門や検査部門が集約されている．右：病院2階，食堂・デイルームよりクリニック2階のリハビリ室を見る．食堂・デイルームでは日々の食事の他，食事リハビリやワークショップなども行う．

病院3階平面

病院4階平面



1階平面　縮尺1/1,000

2階平面